

# たけふ

TAKUSUI  
No. 721

11  
November 2016

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



紅葉鯛

## 山田 隆義氏 旭日小綬章 受章される

山田 峰人氏 (前JF兵庫信漁連会長) 大日本水産会 平成28年度水産功績者に決定

《今月の海上安全標語》 ～ 船は急には… ～

大型船は「見えない、曲がらない、止まらない」。

今、操業中のあなたの漁船を避けるとは限りません!!

気をつけよう! あなたの近くの <sup>でかい</sup> 巨大船 では、今月も安全操業で!

# ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

（ようこそとは航海用語で「宜しく候の意。主に船を直進させるとききの号令として使われる」）

## 天空の城 竹田城

但馬漁船保険組合 総務課 岩崎 佳恵



皆さんは何か趣味をお持ちですか？

私にはこれと言ってすぐに答えられる趣味はないのですが、野球観戦や読書、食べる事（体型を見ておわかりか）が大好きです。そしてもうひとつは、旅行です。滅多に行くことは出来ないのですが、海外とまでは言わないので、日本

のまだ見たことのない綺麗な景色を見に行きたいなと思っています。現在行きたいと思っているところは、富士五湖、北海道のオンネトー湖、山口県の角島大橋、そして兵庫県の但馬地域にある竹田城です。竹田城は兵庫県にあるのでいつでも行けそうに思うのですが、皆さんもご存じの通り、日本のマチュピチュ、天空の城とも言われ、タモリさんがコーシヤルで雲海の上を歩いていたり、映画撮影のロケ地としても（天と地と、暴れん坊将軍、軍師官兵衛、忍たま乱太郎etc.）使われているようで、大人気になってしまい、入城料がかかるようになってきたり、規制がかかったり、休日になると大変混み合うようで簡単に行く事が出来なくなっていました。歴史が大の苦手で、歴史上の事、お城のつくり等々は全くわからないのですが、とにかくあの雲海に浮かぶ竹田城の姿を見たい。あの景色が最も良く見られるのは、秋から冬にかけてと期間限定な上に、日の出から午前8時頃までという時間限定、朝と日中の気温差が大きく、風が無く、良く晴れている事など条件づくしで、早起きして行っても必ずみられる物では無いということなので、今現在まだ一度もチャレンジしたことがありません。どこから見るのが良いか、かなり冷えるらしいので防寒対策が必要とか、下調べは完璧なつもりなので、今年こそはチャレンジしよう！と只、今天気予報とにらめっこ中です。拓水が皆さんのお手元に届く頃には、念願が叶い、雲海に浮かぶ竹田城を見て感動し、にこにこ笑顔でお仕事している私がいると良いなと思っています。

## CONTENTS

No.721 November. 2016

- 2 ようこそ
- 3 山田隆義氏 旭日小綬章受章  
大日本水産会 平成28年度水産功績者決定
- 4 松葉ガニ漁 解禁  
豊漁祈願祭と兵庫県漁業協同組合長懇談会開催
- 5 『生石鼻灯台』LED灯器化完了  
七尋池で「かいぼり」を実施
- 6 淡路漁青連が倭文小学校で料理教室  
山田隆義組合長「豊かな海 瀬戸内海」講演
- 7 地域漁業学会 第58回大分大会に大輪田塾修了生参加  
海難事故をなくそう
- 8 大輪田塾だより
- 9 兵庫JCC通信
- 10 旬に想う  
今年も女子プロ野球選手と一緒に地引網体験



### 表紙の言葉 「紅葉鯛」

近年、安定した漁獲量をみせるマダイ。

春から初夏にかけて水揚げされるものを「桜鯛」、夏から秋にかけて、エビなどの餌を沢山食べて脂がのっているころのものは「紅葉鯛」と呼ばれています。

写真は、南あわじ市の小学校にて淡路地区漁協青壮年部連合会が開催した料理教室で、子どもたちが捌く紅葉鯛。

子どもたちにとっては、旬の美味しさを体感した1日となったようです。

山田隆義氏 (前JF兵庫漁連代表理事会長)

旭日小綬章

を受章されました



山田 隆義 氏  
(前JF兵庫漁連代表理事会長)

平成28年秋の叙勲において、JF神戸市代表理事組合長 山田隆義氏(前JF兵庫漁連代表理事会長)が、船びき網漁業の振興と資源管理型漁業の推進、漁協経営の改善のほか、県漁協系統団体の要職を歴任するとともに、豊かな海の実現を目指して、関係漁連・各省庁へ積極的な運動を展開し、瀬戸内海環境保全特別措置法の一部改正を成し遂げたこと、さらに、漁船保険中央会長として来春の全国統合組織設立に尽力されたこと等の功績により旭日小綬章受章の栄に浴されました。

伝達式は11月11日(金)、農林水産省7階講堂で執り行われ、同日、皇居にて天皇陛下に拝謁されました。

心よりお慶び申し上げますとともに、今後益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。



## 大日本水産会の平成28年度水産功績者が決定

～兵庫からは山田 峰人氏(前JF兵庫信漁連会長)が受賞～



山田 峰人 氏  
(前JF兵庫信漁連代表理事会長)

大日本水産会(白須 敏朗会長)は、10月25日(火)開催の第2回水産功績者表彰委員会において、平成28年度の水産功績受賞者32名を決定し、発表しました。

兵庫からは、水産業の振興と発展に功績があった山田峰人氏(前JF兵庫信漁連代表理事会長)が選ばれました。

表彰式は、12月1日(木)に東京で開催され、農林水産大臣・水産庁長官が臨席し行われる予定です。

心よりお慶び申し上げますとともに、今後益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。

# 松葉ガニ漁解禁!! 解禁を待ちわびた各浜は賑わう

日本海の冬の味覚、ズワイガニ（松葉ガニ）漁は、富山県から島根県までの1府6県で11月6日（日）に一斉解禁となり、日本一の水揚げを誇る兵庫県でも、JF但馬、JF浜坂所属の沖合底曳船49隻が次々に出港し、解禁の午前0時を待って一斉に網を投入しました。

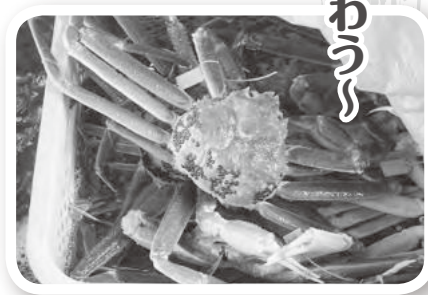
初競りは同日午後から行われ、浜坂漁港では最高値が雄ガニ一匹33万円となり、浜は大いに沸きました。柴山港では恒例の「祝！かすみ松葉ガニ初せりまつり」が開催され、セコガニの味噌汁が振る舞われるなどし、解禁を待ちわびた

馬地区全体での水揚げ量は、荒天の影響もあり、オスガニが前年比44%減、メスガニが前

年比22%減となりましたが、水揚げ額はやや品薄のため全体的に高値で取引され、前年比106.6%の約1億5,400万円となりました。

観光客や地元住民らが大勢詰めかけ、賑わいました。初日の但

この漁の操業は3月20日まで行われますが、資源保護の取り組みとしてメスガニ（セコガニ）は12月31日まで、若マツバガニ（ミズガニ）は1月20日から2月28日までと操業期間を短縮しています。いよいよ解禁となりました。今漁期の豊漁と安全操業を祈念します。



浜坂漁港では雄ガニ1匹に33万円の値がついた



船内での作業の様子

## 平成28年度 豊漁祈願祭と兵庫県漁業協同組合長懇談会が開催される

JF兵庫漁連（田沼 政男会長）は9月5日（月）、たつの市において「平成28年度豊漁祈願祭」と「平成28年度兵庫県漁業協同組合長懇談会」を開催しました。

午前11時から行われた「豊漁祈願祭」には、県内のJF組合長、系統団体の代表、行政機関の代表等約70名が参加しました。本年は、たつの市御津町の「ホテルシーシヨア・リゾート」内の祭壇で、同市室津の賀茂神社の神職により執り行われ、参加者は、豊かな海の創出と豊漁、操業の安全を祈願しました。

その後、会場を、たつの市商工会 御津支所へ移して、「兵庫県漁業協同組合長会議」が開催されました。会議では、まず「中央情勢について」と題して、J



萩シーマートの取組みについて中澤さかな氏

F全漁連 大森 敏弘常務が講演を行いました。大森常務は、水産関係予算の平成28年度補正・平成29年度概算要求の概要のほか、水産基本計画の見直しの検討状況や課題を中心に話をされ、集まった参加者は熱心に耳を傾けていました。

続いて「道の駅 萩シーマート」と中澤さかな駅長より、「地域水産業活性化の多機能拠点施設」と題した講演がありました。中澤氏は、未利用魚の販売など、この道の駅で実践している地産地消の具体的な取組事例を紹介されるとともに、漁業を地域活性化に、どのように活かしていくかについて持論を展開され、終了後、会場は大きな拍手に包まれました。

（文：JF兵庫漁連指導部）

# 『生石鼻灯台』LED灯器化完了 ～灯台・白熱電球時代の終わりを迎えて～



旧灯ろうを撤去中の生石鼻灯台

10月24日(月)、淡路島の南東端、1日に300隻もの船が行き交う友ヶ島水道を望む標高約100mの小高い丘の上にある生石鼻(おいはな)灯台で、昭和49年の初点から使われてきた白熱電球に代り、LED灯器が設置されました。

LED(発光ダイオード)という、フィラメントを使った白熱電球に比べて消費電力が少なく、また長寿命なことで知られていますが、近年では信号機や照明等に用いられて普及著しく、皆さんのお宅にも既に一つ一つと取付

けられていることと思います。さて、ちよつと前まで灯台の光といえば、やや黄みを帯びて、余韻を引くようなボーツとした光り方をしていたものです。これが白熱電球の特徴でもありましたが、やがて省エネ効果が高く、安価で明るいLEDが出



新たに設置されたLED灯器  
背後は友ヶ島水道

回ると、灯台の灯火として用いられるようになりました。実は海上保安庁とLEDの関わりは意外と早く、平成元年には神戸港苅藻島西灯台に全国で初めてとなるLED灯器が導入されました。以来27年余りに渡り灯器のLED化が進められ、神戸保安部所管内では生石鼻灯台を最後にLED化が完了しました。また姫路保安部所管内でも今年度中にLED化を終える予定ですので、大阪湾に次いで播磨灘でも白熱電球の時代が終りを告げます。

この度LED灯器を設置したことにより、生石鼻灯台の光り方もスパスパと切れの良い真っ白な閃光へと変化しました。五秒に一度光るリズムは変わらず、また光が届く範囲もほぼ従前と同じですが、見易さと信頼性が向上しましたので、これまでどおり同灯台をご利用くださるようお願いいたします。(文：神戸海上保安部交通課) ※江崎灯台や神戸灯台等の大型の灯台はLEDではありませんが、十数年前から白熱電球に代わり、放電灯が用いられています。

## 七尋池で「かいぼり」を実施 2日間で延べ150人あまりが参加

JF森(森義政組合長)とJF仮屋(岡田光司組合長)は、平成20年度から農業者と連携を図り、毎年、近くのため池での作業を継続して行っています。

今年も、10月19日(水)、20日(木)、淡路市久留麻の七尋池(ななひろいけ：貯水量約1万4千立方メートル)で行われ、JF森・仮屋の農業者や地元農業者らが2日間で延べ150人あまりが集まり、かいぼり作業に汗を流しました。関係者によると、この池でのかいぼりは少なくとも

20年以上は行われていないとのこと、底には全体的に泥が堆積しており、深いところでは腰の辺りまでありました。

作業は、19日に池に残った魚取りを中心に行い、20日は重機とポンプの放水を併せて、漁業者がジョレンなどの道具を使った手作業で、丁寧に池や水路の泥を流しました。

「かいぼり」は、海の環境への影響のほか、農業用水の確保、堤防や底樋の状態を確認する池の管理、泥を流すことで増える貯水量がもたらす防災効果、外来魚駆除による生態系保全などの様々な役割を果たすことから、淡路島内に留まらず、播磨地区にも拡がりをみせています。



丁寧に手作業で流していきます



山からの砂や泥が堆積していました

**淡路漁青連が倭文小学校で料理教室を開催**  
 ～今回はマダイを使った料理に挑戦～

淡路地区漁協

青壮年部連合

会（山崎 大輔

会長）では、「淡

路の魚をもっと

知ってほしい」

と、毎年、淡路

島内の小学校で

料理教室を開催

しています。

今年も、11月

2日（水）に南

あわじ市立倭文

（しとお）小

学校の6年生13名と教員を

対象に、マダイ、小エビ、ワカメを使った

料理を作りました。



講師の包丁捌きに注目が集まります



魚の調理を楽しんでもらえたようです

講師は同  
 漁青連渡  
 邊直部員  
 （JF由良  
 町）が務め、  
 マダイを捌  
 くところか  
 ら始まりま  
 した。渡邊  
 講師は「ウ  
 ロコが付い  
 ていたら美  
 味しくない  
 から、丁寧  
 に取り除く

こと」と実演を始める、子どもたちから「料理番組みたい」と嬉しそうに話しつつ、ウロコを取る音などにも関心を持って見つけていました。3枚におろす際は、講師をはじめ同部員や県職員から丁寧な指導もあり、慣れない包丁に苦労しながらも無事に作業を終えることが出来ました。  
 この日作ったのは、タイの刺し身、小エビの唐揚げ、ワカメの酢の物、タイのあらでしっかりダシを取った味噌汁（素干しパテ海苔入り）で、試食では皆美味しそうに食べていました。子どもたちからは「包丁の使い方が分かった」「魚の内臓を取るのには難しいことが分かった」「タイの皮が食べられるとは知らなかった」など、たくさんのお話を学んでもらえたようで、山崎会長は「今日学んだ料理を是非お家でも作ってほしい」と話されました。

**山田 隆義組合長が「豊かな海 瀬戸内海」と題し講演**



JF神戸市 山田 隆義組合長が、神戸市の垂水区民を対象とした「第21期 垂水文化講座」において、「豊かな海 瀬戸内海」と題した講演を行いました。

この講座は、三洋電機株式会社 創業社長である故井植 歳男氏が、淡路島の東浦町に建てた公民館で始めた青少年教育、郷土の社会教育の活動を前身とする、公益財団法人 井植記念会（井植 貞雄理事長）が主催し、垂水区塩屋のジェームス山頂にある「井植記念館」で年間10講座が行われており、毎回100名を超える聴講生が参加しています。



経験を踏まえて様々な話をされた山田組合長

10月17日（月）の第6回講座に講師として招かれた山田組合長は、1時間半にわたり、瀬戸内海で行われる漁法と採れる魚を写真や古い漁業の形態を描いた絵などで紹介したほか、明治以降のJF神戸市の歴史について写真で振り返りつつ、地元神戸で漁業について説明を行いました。最後には、山田組合長自身の経験も踏まえて、豊かな海を目指して行ってきた瀬戸内海環境保全特別措置法の一部改正の経緯やその意義を話され、理解を求めました。  
 会場には、この日、約130名が集まり、初めて聞く話や、昔懐かしい写真に関心を示し、メモをとる姿が多く見られました。

# 地域漁業学会 第58回大分大会に大輪田塾修了生が参加 ～大分県「豊の浜塾」の塾生と交流も～

「豊の浜塾」とは、平成14年に「広い視野と優れた経営感覚を持ち、各地域で指導的立場となる人材の育成」を目的に、同県漁業士、その配偶者、JF女性部員等を対象に開設された塾。後継者問題・漁場環境・漁家経営をはじめ海外研修を行うなど、多岐にわたる講座を行い、閉塾（2010年）までの4期8年で卒業生64名を輩出した。現在、卒業生は「大分県水産業の発展に向けた意見交換会」の場において、水産施策・漁協経営に対して提言するなど活躍。

1959年に「西日本漁業経済学会」として発足した地域漁業学会（田和 正孝会長・関西学院大学教授、大輪田塾運営委員）は全国に約300名の会員を持つ研究団体です。同学会の第58回大分大会が、10月29日（土）～30日（日）の2日間、大分県別府市で開催されました。29日には、兵庫県の大輪田塾と大分県の豊の浜塾の活動から地域漁業リーダー育成を考えるシンポジウム「地域漁業を支える人材育成～浜のリーダーの役割を考える」が同学会と大分県農林水産部水産振興課の共催で行われ、会場には、全国から集まった学会関係者、大分県水産振興課・豊の浜塾卒業生、大輪田塾修了生ら約90名が集まりました。



修了生として意見発表を行う戎本組合長

この後、参加者が6グループに分かれて行ったテーブルディスカッションは、時間が足りないほど大いに盛り上がりを見せ、人材育成に必要な学ぶべき課題や、人材育成の活動をどのように伝えていくのかなどが話し合われました。最後に行われた総合討論の場では、「人との繋がりが大事」、「リーダー育成は60代からでも出来るのでは?」といった様々な意見が出されるなど、最後まで活発な議論が行われた会となり、大輪田塾から参加した3名の修了生は、様々な人との意見交換、大分県の漁業者との交流、学会の雰囲気などに新たな刺激を受け、貴重な機会となりました。

## 海難事故をなくそう!

### ライフジャケットを着よう!

膨張式ライフジャケットは定期的なメンテナンスが必要です! 最近ではポンペが下部に配置されたタイプもあり、首回りが楽になっています。是非、着用してください!



ライフジャケット (膨張式)  
モデル: JF兵庫漁連  
佐川 幸太さん

### ～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか?

浮力合羽はJF兵庫漁連が開発したもので、皆様の安全をサポートします。浮力は充分にあり、動きやすいように工夫されています。まだお持ちでない方は是非!

※国土交通省の型式承認試験基準に合格したものではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。



モデル: JF兵庫漁連 正木 靖久さん

ライフジャケット・浮力合羽の購入は  
所属JFかJF兵庫漁連資材部 (078-942-9272) までお問い合わせください

# 大輪田塾だより

## 平成28年度大輪田塾修了式ならびに入塾式開催

第10期生5名が修了しました

幅広い視野をもった将来の水産業界をリードしていく人材育成、すなわち「浜のリーダー」を育てることを目標に、様々な研修・講義を行っている大輪田塾は、毎年、この時期に修了・入塾式が執り行われています。今年は10月25日（火）に兵庫県水産会館で、平成28年度大輪田塾修了式ならびに入塾式が行われ、10期生5名が修了するとともに、12期生となる新入塾生6名が入塾しました。

山田 隆義塾長（兵庫県水産振興基金理事長）、県水産課 小林 孝司 課長をはじめ、同塾運営委員、県・系統役員など約50名が出席する



修了生の記念撮影  
（前列左から：山中さん、小林さん、田沼県漁連会長、山田塾長、小林水産課長、引野さん、藤本さん、島崎さん（代理：JF但馬 眞野組合長）

### 修了生の紹介

氏名(期)	所 属
小林 幸生 (10期生)	J F 坊勢
引野 裕允 (10期生)	J F 仮屋
山中 盛吉 (10期生)	J F 一宮町
島崎 卓也 (10期生)	J F 但馬
藤本 朋也 (10期生)	兵庫県漁業協同組合連合会

(敬称略・順不同)

なか、修了式では、修了生が一人ずつ山田塾長から修了証書を手渡された後、「決意の言葉」を述べました。その後、11期生 山崎大輔さん（JF淡路島岩屋）からの「送る言葉」を受けた5名は決意を新たに修了しました。（業務の都合で欠席された10期生 島崎さんの代理でJF但馬 眞野 豊組合長が受け取りました）

続いて行われた入塾式では、新入生代表の福山 貴久さん（JF林崎）が力強く「誓いの言葉」を述べたのち、11期生 小柴 佐王里さん（共水連兵庫県事務所）から歓迎の言葉が贈られました。式は、山田塾長の訓辞、来賓県水産課 小林課長、JF兵庫漁連 田沼 政男会長から祝辞を頂き終了しました。

このあと、(株)オフィスなかがわ 川 政雄代表による記念講演「組織を伸ばすリーダーとは」が行われました。リーダーに必要な条件等の話の内容に、塾生は熱心に聞き入っていました。修了生のこれからの活躍を祈念するとともに、12期生の今後の塾での頑張りに期待します。



入塾生の記念撮影  
（前列左から：前田さん、上田さん、福山さん、田沼県漁連会長、山田塾長、小林水産課長、中山達貴さん、中山大輔さん、中村さん）

### 入塾生の紹介

氏名	所 属	漁業種類
福山 貴久	J F 林崎	ノリ養殖・小型底びき網
上田 剛輝	J F 坊勢	船曳網・小型底びき網
前田 恵吾	J F 坊勢	船曳網・小型底びき網
中山 大輔	J F 淡路島岩屋	船曳網
中山 達貴	J F 淡路島岩屋	船曳網
中村 幸司	J F 浜坂	漁協職員

(敬称略・順不同)



## 兵庫県産イチジク使用のゼリーを学校給食に幅広い世代に食べてもらい消費拡大

県内のイチジク産地である小野市、太子町、相生市と、これらを地区とする兵庫みらいと兵庫西の2JA、県いちじく研究会、県学校給食・食育支援センター、JA全農兵庫が学校給食向けの「兵庫県産いちじくゼリー」を共同開発しました。9月下旬から10月中旬にかけて、3市町の学校給食で約1万5千個が提供されました。

県南部ではイチジクの生産が盛んで西日本3位の出荷量を誇りますが、生果の購買層は50代以上の女性を中心です。若年層には馴染みが薄いため、幅広い世代に食べてもらって消費を拡大するため、ターゲットを子どもに絞り学校給食での提供を考案。完熟の果実は保存性が悪く給食での提供は難しいので、ゼリーを開発しました。

開発には武庫川女子大学食物栄養学科の松浦寿喜教授と学生180人が協力しました。コンセプトは①子どもがおいしく食べることができ、残さないこと②食物アレルギー物質が無添加③食べきりサイズの40グラム④既存のフルーツゼリーと同じ価格帯⑤食育に活用できること。

今後は、3市町以外の産地市町にも働きかけ、食育の一環として取り入れてもらい、農家への理解促進、生産拡大につなげることを目指します。



兵庫県産いちじくゼリー

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

## 2016年度

## 兵庫県生協大会を開催

テーマ：協同が息づく兵庫のまちづくり  
協同組合がよりよい社会を築きます

10月6日(木)、兵庫県民会館で2016年度「兵庫県生協大会」を開催。会員生協の組合員、役職員など210人が集いました。「生協強化月間」の10月は、全国の生協で「活動や事業について知っていただき、生協の輪を広げる」ための催しが行われています。

第一部 記念式典は、主催者を代表して兵庫県生協連 本田英一 会長理事が挨拶。引き続き、ご来賓の兵庫県、神戸市、兵庫県議会から生協への期待が込められた祝辞をいただきました。続いておこなわれた表彰式では、長年生協の発展に寄与された3人の会員生協役員に生協功労者表彰として「兵庫県知事感謝」、生協業務に精励した21人の役職員に「兵庫県生活協同組合連合会会長表彰」が贈られ、会場の参加者は大きな拍手で祝いました。

第二部は、「夢と未来」をテーマに、“未来”は、介護の世界で活躍するべく研究がすすめられている、インターネットから台本を自動生成する漫才ロボット「あいちゃんとゴン太」について、甲南大学 知能情報学部 教授 灘本 明代氏より講演いただきました。“夢”では、神谷 徹氏による、市販のストローで作られた愉快的な動きや美しいハーモニーを奏でる笛で、童謡など懐かしい曲の数々を演奏いただきました。また、会員医療生協による「健康チェック」や「(公財)兵庫県健康財団」による健康づくりと疾病予防の取り組み、ロビーでは「兵庫県フェニックス共済」「兵庫労働共済生活協同組合」の共済紹介や、災害に使いながら備える「ローリングストック」の展示も行われ、多くの参加者でにぎわいました。

▶生協功労者表彰として「兵庫県知事感謝」が贈られました



◀「ストローミュージック」神谷 徹氏

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



# 旬に想う

写真と文  
遊方子

## ちょっと怠ける

◆『快樂』とは「気持ち良く楽しいこと・欲望を満たす心地よさ」であるが、又自分を無防備の状態におく事でもある。面白い小説に夢中になったり、好きな音楽に興じている時は無防備であり、眠っている時も全くの同様だといえよう。飲酒することも同じで、酩酊の瞬間は自分を忘れるほどに無防備状態を作っている。これは快樂そのものであり、生き甲斐でもある。また、仕事中に一寸息抜きする余裕も快樂といえる。仕事の合間に伸びをし、欠伸をする。煙草を吹かす、体操をする。鼻歌を歌い、詩を作り俳句を詠む。どれも大した事は無いが、心に趣きの台を乗せ《怠け》の時が必要だ。怠ける事はいい事である。

◆鈍行列車で、あての無い旅に出た二十代の頃の思い出。大雑把に《能登》を目指して終点「珠洲」で下車した。あとは徒歩で禄剛崎に出て、僅かな記憶を頼りに狼煙（のろし）の一軒宿に泊った。翌日は日本海の水で泳ぎを楽しみ、もう一泊した。宿に電気が来ておらず、夜はランプを灯した。火屋（ホヤ）からの明かりは薄暗いもので、昔々の暮らしが実感出来たのである。畳の上をフナムシが横切り、波の音が絶えず聞こえていた。夢心地のうちに眠りへ誘い込まれ、最高の優雅なひと時になって熟睡した。快樂といえる数日。これと自分だけでは何も出来ておらず、列車も宿も他人サマの助け無くしては成り立たない。

◆人はワガママに一人で暮らしている様でも、陰で大勢の人達に支えられている。「幸せ」とは大勢の支えがあって、成り立っているように思う。人が幸福と呼ぶものの本質とは何だろうか。ホンのささやかな満足に浸れる瞬間、微笑み合える時間が持てた喜び、それが幸せと言えるような気がする。勤労は神聖な営みであると、子供の頃に教えられ刷り込まれ、怠ける事を悪いと信じて来たのであるが、寧ろ一寸怠ける事は大切な事なんだと思うように変ってきた。

◆ある会社の社長は昼休みに、社長室で香を焚くという。静かに目を閉じて香りの世界に浸ると、体の力がスッと抜けて現実から夢幻の世界へ入り、心は解放された気分になる。此の瞑想の時間にストレスは解消し、活力が充電されるそうだ。戦後の貧しかった時代を経て、平成の今は物資の飽和状態の中で生きている。豊富な物資に取り巻かれ、何ら不自由の無い環境である。私は定年退職して少なくなない年金を頂戴し、超高齢社会の一構成員となって、老後を楽しむ一人である。快樂を貪り謳歌するため、青壮年層に大きな負担を強いているが、老年者より早く世を去れと言われそうな気がする。感謝を忘れてはなるまい。

## 今年も女子プロ野球選手と一緒に地引網体験

漁業に関心を持ってもらおうと、仮屋漁協青壮年部（倉本 哲也部長）と森漁協青壮年部（畠田 龍一部長）が共催する地引網体験が行われ、浜は子ども達の歓声に包まれました。

昨年に続くこの取組みは、今年も10月18日（火）に森漁港の北側の浜で行われ、淡路市立学習小学校6年生45名と仮屋保育所5歳児クラス46名が招かれました。子どもたちのスペシャル“助っ人”として、地域貢献をスローガンに掲げ淡路島を拠点とする女子プロ野球チーム「兵庫ディオーネ」の選手ら5名も駆けつけ、両



揚がった魚に歓声が上がりました！

青壮年部メンバーが、漁船で沖合約30メートルの地点に仕掛けた長さ約200メートルの網を、集まった子どもたちは「よいしょ、よいしょ」と声を掛けながら、選手たちと一緒に引き上げました。

網の中には、タコやタイ、ペラ、イカなどの魚介類がスタッフも驚くほど入っていました。元気に跳ねる魚に子どもたちはもちろん、選手も歓声を上げ、魚の姿を観察したり、触って感触を確かめたりしていました。

地元子どもたちを対象に、長年、地引網体験を行っており、子どもたちが楽しみにしている行事の1つとなっています。両青壮年部員一同、このような体験を通して“魚好きな子どもになって欲しい”と切に願っております。（文：仮屋漁協青壮年部）